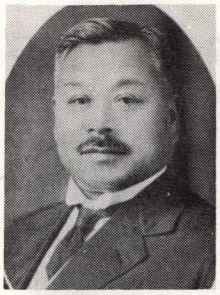
留萌市史……⑦

工場誘致に奔走した赤石町長

昭和9年建設された留萌町立病院



高橋　文平

11代町長
赤石　忠助

町村の選挙法は、大正十四年五月普通選挙法が公布された。

しかし、留萌町村議員選挙は、旧法で施行され、ようやく昭和二年八月に北海道一級、二級町村制の改正が公布され、以来町会議員の選挙は普通選挙法により執行することになった。

留萌町会議員選挙が、普通選挙法によって執行されたのは昭和三年五月三十一日であった。

有権者二千六百八十五人で議員定数は二十四議席、任期は四年であった。

この選挙が行なわれた当時、留萌町には大きな問題があった。

元利約三百三十万円になっている町債をいかに解決するかによる町の安危を決定する問題、築港の進捗による内港の利用問題、その他女子職業学校および小学校の建設、道路舗装問題などの町の重要案件を控えていたので町民の関心は高かった。

この回の選挙に立候補したのは政友系は五十嵐億太郎、山本仁次を含めた十五名、民政系は堺太一若林与三吉を含む九名、鳥海直隆内堀博治を含む旧本党系が四人春木隅吉、伊佐津和平を含む中立派六名と三十四名の他、数人が加わり二十四の議席を争った。

一方、第九期道会議員選挙は、昭和三年八月一日行なわれ、有権者は普通選挙法の適用により、一万三千百十七名、立候補者四名で争われ、民政系の小谷木常祐、政友系の高橋文平が当選した。

旭川から赤石町長が就任

昭和七年五月三十一日の改選による選挙では、有権者三千百十二人で投票数二千六百三十一人、立候者三十九人が二十四議席を争った。

内堀博治、原田太八ら二十四人が決ったが、芝崎仁蔵が都合により欠員となったため、次点の菅藤吉が当選した。

一方、第十期道会議員選挙も同年行なわれ、立候補者四名で争われたが、民政系の栗山弘志、政友系の玉置信一が当選した。

この間、町理事者の方を見ると十代町長樫田三郎が六年十一月に辞職し、その後朝倉助役が町長事務取扱いを勤めて来たが、翌七年三月には旭川商工会の専務理事であった赤石忠助が十一代町長として就任した。

また、収入役には渋谷千代治にかわり赤石町長推薦の安東敬三が同じく就任した。

赤石町長は、約七年半にわたり留萌町の発展に努力した。

それは、昭和八年には留萌港の修築完了をみ、翌九年には留萌町の一大重要問題であった町債問題の解決などにも見られる。

また、十一年の任期満了においても再任され、引続き町政をあずかった。

二期目を迎えた赤石町長は、北海道人造石油工場東洋高圧硫安工場などの留萌誘致運動に着手した。

この二工場の誘致は、ほぼ成功したかに見えたが、十四年九月十日硫安工場の建設が中止になるという事態になり、赤石町長は責任を感じ辞意を表明、周囲の慰留にもかかわらず、同月の第八回町会で辞職が承認された。

町長の後任問題は、各派の間で暗々裏のうちに物色され、政友系や中立派は助役の原田浅次の町長昇格を主張、一方民政系は近い将来市政を目指し、次代市長の前提としての移入による大物町長を迎えるべきであると主張し、意見調整が危まれていた。

郵便局の 簡易保険

普通死亡保障 ―― 300万円

傷害保障 ―― 300万円～30万円
障害の程度により保険金の全額から1割まで

入院保障 ―― 36万円～1.5万円
5日以上の入院に対し、1日につき保険金の1/1000を120日まで

◎巡回図書配本所はもよりの配本所を御利用下さい。

○大町会館―大町三丁目○柴谷通玩宅―寿町一丁目○開発第二寮寿町三丁目○聖公会―幸町三丁目○東光振興会館―花園公園○自衛隊官舎―南町

◆新刊案内

美の存在と発見（川端康成）○忍者丹羽大介（池波正太郎）○怪盗ジバゴ（北杜夫）○行隠れ（古井由吉）○密会（吉村昭）○誰も知らない明日（中島みち）○けっぱり先生（山口瞳）○嫉妬（アラン・ロブグリエ）○熱い恋（サガン）○子供の本の世界（ヒューリーマン）○たのしいアマ無線（大沢幸天）○孤里療雑記帖（遠藤周作）○若者の思想と行動（加藤諦三）○思春期との対話（平井信義）○トロイの木馬（ポール・ニザン）○読書成想文コンクール課題図書

◆七月の休かん日

毎月よう日　三日、十日、二十四日三十一日

◆留萌祭り臨時休かん　十六日～十八日まで